

大分教育事務所訪問②-24 (計 97)

臼杵市立野津中学校に学ぶ2

学校経営から学ぶ

学校の教育目標を達成するために、「学校評価の4点セット」のそれぞれの取組について、教職員等の実施率と取組状況、生徒の達成状況と検証、改善策が明確に示されており、実効性のある検証・改善サイクルとなっています。

特に、IN3OKを合い言葉に、「いじめ見逃し0」「思いやりと言葉遣い」を継続的に取り組んでおり、また、生徒と共に創る授業における達成度は97.5%となっています。そのため、学力調査や各種アンケートからも成果として現れています。

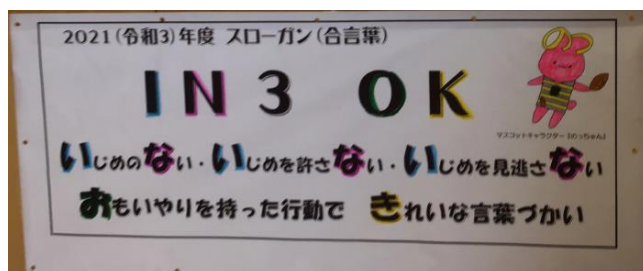
今後は、IN3OKをより実現するために、学校が定めた3つの「育成を目指す資質・能力」をつなぐような教科横断的な資質・能力について検討してみてはいかがでしょうか。(例：言語能力)

※参考資料「中学校学習指導要領解説 総則編 pp.48-54 2教科等横断的な視点に立った資質・能力 ア：言語能力」

そのように、資質・能力を絞り込むことで、教職員や生徒は常にその事を意識するようになり、目標の共有がすすむと思います。そのことで、具体的な取組は担当者や生徒会にも任せることができ、当事者意識がより高まると思われました。また、そのような資質・能力について、保護者や地域の方とも熟議等を行うことで、より協働的な取組が行われると思います。

授業から学ぶ

3年生社会では、ロイロノートを使った学び合いが効果的に行われていました。2年生国語は、タブレットを使うことで個別最適な学びを保障し、さらに途中で中間発表を行うことでメリハリのある実践が行われていました。あのように、個人で学ぶ時間においても途中で全体で学びを共有する時間を



参加する

先生の説明を聞きながら、自分の頭で考える。疑問をもつ。参観ではない、参加するのだ。



ふりかえり

学んだこと。できるようになったこと。これからやってみようこと。成長を感じる時間。

取り入れることはとても有効です。多くの授業で実践されることを期待します。

指導案における「振り返り」も教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして具体的に表していました。今後は、実際の生徒が書いた振り返りと比較したり、互見授業等で、「振り返り」と「めあて」との連動や評価規準との整合性について協議することで、授業改善がより推進されると思われました。